

リーディングDXスクール事業【実践事例】

大分県立情報科学高等学校

【取組内容】 クラウドを活用した授業課題や課題提出、アンケート集約等生徒の実践的な情報活用能力の育成

【自由進度学習による活用】

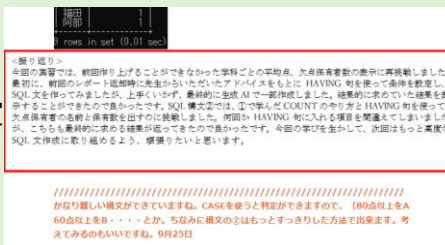
学習進度を自分で決め、1時間完結で、目標と振り返りを行う。課題の提出はクラウド上（office365）で行う。毎時間の振り返りを行いクラウド上に保存することで、次の時間の目標を立てることが可能になり、次時への導入がスムーズになる。

◇Office365を活用 →
した提出課題の様子



【提出課題による個別添削】

振り返りを大切にする課題の提出。個別添削。内容の振り返りと個別の指導がそれぞれの個々の学習意欲を高め、目標設定が可能になる。



↑ 個別添削による生徒の取り組みの変容

【積極的なアウトプットで理解を促進】

「説明が他人にできて教えられること」を条件に自分なりにわかりやすくまとめさせる。既習事項をいくつかきちんと組み立てて考える論理的思考力と、正しく表現する力、そしてわかりやすく説明する力が必要になり、本質的な理解につながる。自分の中にあるパーツの組み立てを頑張る生徒が確実に増えた。



【自身のプレゼンを他者から評価】

自身のプレゼンに対する評価アンケートをFormsを活用して自身で作成し、コメントを収集する。

次回への改善点として役立てることで、自身のブラッシュアップにつなげていく。得られた回答は生成AIを活用して集約も行う。

また、他者に対する評価を行うことで評価者としての意識も向上するとともに自身との比較に役立っている。

【授業後の活用で思考時間の確保と欠席者の対応】

授業における板書をTeamsにアップ。もう一度思考をしたい人やじっくり考え直したい人に好評。また欠席者にとっても授業の遅れが気にならない。授業配信も実施。会議により認定を受けた生徒に対し、全授業配信も行う。イベントや行事についても極力欠席者への配信を行う。



【生徒一人一人の看取りを評価へ】

Formsで意見集約発言する生徒だけでなくすべての生徒から考えや思考の様子をとらえることができる。発言するより記述の方が多くの考えをリアルタイムに知ることができる。意見を参考に授業改善にも役立つ。またグループ活動においてはWordやPowerPointなどで協働編集作業を行い、その記録を評価にしていける。生徒一人一人の看取りにつながる。

社会に出て活用できるように、何をどの場面でどのように使ったらいいかを考える力を身に付けさせる。

情報活用を自分で選択できる選択肢を増やす取り組みを高校で実践